

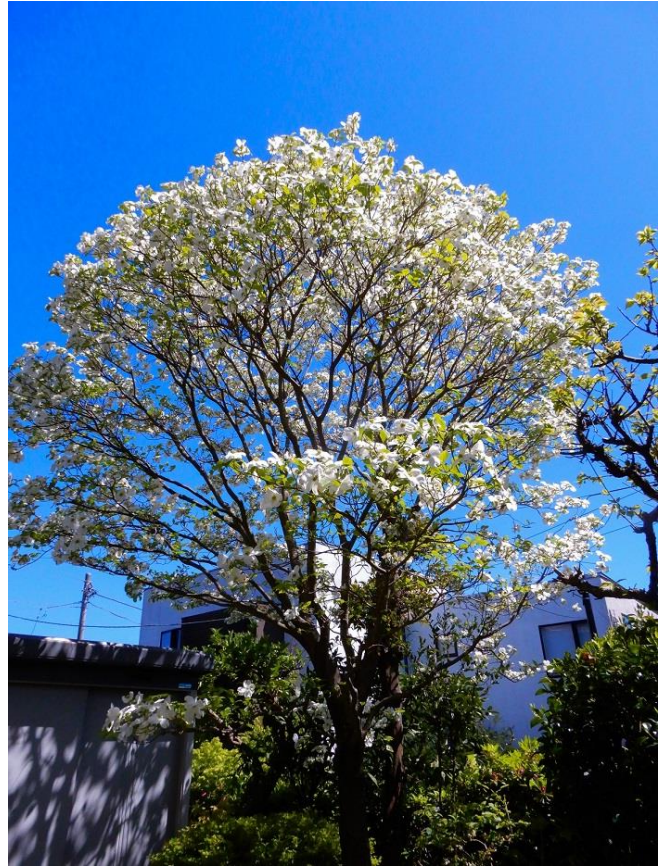
我が家の庭にも樹高6～7mのハナミズキの木(写真添付)があります。

季節になると毎日のようにメジロが4～5羽の群れでやってきて、数分の間このハナミズキなどの木々の枝をあちこち飛びまわった後、どこかへ飛び去って行きます。

8年ほど前のある年の晩秋、葉をすっかり落としたハナミズキの枝の間に、未完成と思われる鳥の巣が残されているのを発見しました。

この鳥は翌年にこれを再建し再利用するのではないかと思い、

そのままにしておきましたが、翌年の春になっても一向にその巣に鳥が来る気配がないので、その巣を巣箱に移しておきましたが、その後何年経ってもその巣箱にも鳥が訪れることもありませんでした。



その巣を発見した時との前後関係の記憶があいまいなのですが、

ある時、その鳥が巣を放棄する原因になったのではないかと思われる出来事がありました。

早春のある日の朝、居間の窓ガラスに何かが飛んできてコツンとぶつかったのが目の片隅に入りました。戸を開けて軒下を見ると、コンクリートのたたきの上に、薄緑色の小さな鳥が微動だにせず横たわっていました。拾い上げてよく見ると、紛れもなくメジロでした。クチバシ周辺にも出血はなかったのであるいは息を吹き返すのではないかと思うものの、小鳥の心臓マッサージの方法もわからないので、ティッシュに軽く包んで、手で温めてやり、テーブルの上に置いておいたところ、数分後に、ティッシュがもぞもぞ動き出したので、手に取ると、いきなり羽をバタつかせたかと思うと、パッと飛び立ち部屋の中から出口を探すようにあちこち飛び回りはじめました。

とても捕まえられないので、ガラス戸を開けてやると、礼も言わず無言で飛び去って行きました。

鳥も PTSD にかかるのか、それ以後、ハナミズキの木に巣が架けられることはありませんでした。

タイ仏教では放鳥で功德を積むとのこと、ご利益がめぐってくることをひそかに待ち望む毎日です。